



「読書感想文」を紹介します

校長 津田和也

毎年作成している「読書感想文集」の本年度版が完成しました。各学年各学級1作品、合計15作品の感想文集です。

便利で速いことが優先されている昨今、わざわざ文章を読み、それを解釈するなどという面倒なことは避けられてしまうことが多く見られますが、読書は、私たちにたくさんの「言葉」を届けてくれます。「言葉」は、表現力や聞く力、思いやりの心を育んでくれる大切なものです。

海田中学校では読書活動の推進にも努めています。感想文集から1作品を紹介します。1冊の本から多くのことを感じ、考え、学んでいます。ご一読ください。

「一リットルの涙」を読んで

3年4組 58番 西岡 怜奈

恐ろしい病魔が十五歳の少女の青春を奪う。友達との別れ、車いすの生活、数々の苦難が襲いかかる中、日記を書き続けることだけが少女の生きる支えでした。これは、「たとえどんなに小さく弱い力でも私は誰かの役に立ちたい」と最後まで前向きに生き抜いた少女の言葉が綴られた日記です。

私がこの本を読んだきっかけは、今年私のクラスが文化祭で歌う「3月9日」という曲が使われているドラマが「一リットルの涙」だということをお母さんに聞き、本を購入したのがはじまりです。

私は、この本を読んで、印象的だった言葉があります。それは主人公の言った「なぜ病気は私を選んだの？」という言葉です。私はこの本を読んでいくにあたってこの言葉が心に残りました。きっと、誰もが病気にかかれば一度は思う気持ちです。「自分だけ。」「どうして私なのか。」きっと少女もそんな気持ちだったのだと思います。それに、彼女の場合、とても難病だったため、より強く思ったはずですが、しかし、どんなに問いかけても答えはかえってきません。とても悔しいと思います。そしてとても辛いと思います。どんな中でも、少女は、たくさんの人々に希望を与えてくれました。

私は、この本の中の彼女の言葉に涙を流しました。「過去を思い出すと涙が出てきて困る」「夢を与えてくれない」など、少女の正直な思いを読んで、私はもし、自分だったらどのような思いになるのだろう。と考えました。でも、きっと彼女と一緒にことを思うと思います。高校生としてあたりまえに楽しみたい、部活がしたい。そんな普通の生活さえできないのです。周りからの目を気にしてしまい、逃げたくなります。そう考えると本当に彼女を尊敬します。彼女は強く生きていきました。

少女は、周りの人にたくさん支えられて生きていたのだと本を読んで分かりました。しかし、彼女も彼女自身強くなっていったのではないのでしょうか。日記を読むと、病気との闘いの辛さがよくわかります。病気は体の自由を奪っていくのです。歩きたいのに歩けない。昨日できたことが今日もできるのだろうか。この先ずっと不安を抱えたまま過ごすのだろうか。毎日が不安という日々で自分だったらくじけてしまうと思います。

この本を読んで、私は一日一日を大切に生きようと思いました。小さなことで怒ったり、イライラしたりしている自分は彼女と比べるとよっぽど小さいのだと考えさせられます。こんなにも人生を必死で生きた少女が同じ時間を生きているのだから、自分も必死に生きていける人間になりたいです。彼女に病気を与えた神様は、彼女に命の大切さや一日一日の大事さをたくさんの人に教えるためだったのではないかなと思いました。私は彼女の人生を知ることができ、本当に感謝しています。この本は、あたりまえに生きることの素晴らしさを私に教えてくれました。

(「一リットルの涙」 著者・木藤亜也 出版社・幻冬舎文庫)

「学校評価アンケート」から改善策を検討します

2月上旬に保護者の皆様に依頼した学校評価アンケートを集計しました。アンケート調査にご協力いただきありがとうございました。結果は次のとおりです。

昨年度と比較すると「設問1」の肯定的回答率が大きく減少（74.2%→60.2%）しており、また「設問2」の肯定的回答率もわずかしき増加（64.1%→67.8%）しておらず、依然として学校の取組みや情報の発信の仕方に大きな課題があるものと真摯に受けとめているところです。

1 学校からの情報発信により、学校の様子がよくわかる	
そう思う	10.8%
どちらかといえばそう思う	49.4%
どちらかといえばそう思わない	22.4%
そう思わない	10.0%
わからない	7.4%

2 海田中学校の教育活動には概ね満足している	
そう思う	9.0%
どちらかといえばそう思う	58.8%
どちらかといえばそう思わない	15.8%
そう思わない	8.4%
わからない	7.9%

また、この度のアンケートでは、「授業」「生徒指導」「部活動」「行事」「その他」と項目を設定し、「そう思わない」保護者の皆様の率直な思いを記述していただきました。記述は合計で188件ありました。一部励ましのお言葉や感謝のお言葉もありましたが、多くはご要望や厳しいご指摘でした。中学校教育に対する保護者の皆様の期待に十分に答えきれていないことを痛感した次第です。

本日2月23日（木）に開催した「学校関係者評価委員会」において188件の記述内容も含めて調査結果を提示し、ご意見・ご助言をいただきました。今後は、校内委員会においてアンケートの調査結果をもとに改善策を検討してまいります。

※「学校関係者評価委員会」は、学校評議員、民生委員児童委員協議会児童部会長、同協議会主任児童委員、PTA会長、海田東小学校長、海田南小学校長で構成

1・2年生対象「高校説明会」を開催しました

2月17日（金）の5校時に1・2年生を対象に「高校説明会」を開催しました。地元海田町の県立海田高等学校と広島国際学院高等学校の先生に来校いただき、1年生と2年生を対象にそれぞれ別々にお話をしていただきました。高等学校生活とはどのようなものであるか、今、中学生のうちに何をすべきか、どんな力をつけていくことが大切であるのか、それは何のためであるかなど、学年に合わせたスライドを提示しながら丁寧に、そして力強くお話をしていただきました。

生徒一人一人が進路に対する意識を高め、夢が目標となって日々の学習活動に臨み、進路実現につながるよう、これからも進路学習を進めてまいります。

